



# 平成31年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成30年10月26日

上場会社名 株式会社 木曽路

上場取引所 東名

コード番号 8160 URL <http://www.kisoji.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 吉江 源之

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 戸谷 明宏

TEL 052-872-1811

四半期報告書提出予定日 平成30年11月7日

配当支払開始予定日

平成30年11月27日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成31年3月期第2四半期の業績(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	19,873	0.7	152		191		132	
30年3月期第2四半期	19,726	0.2	307		273		256	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	5.20	
30年3月期第2四半期	9.93	

### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第2四半期	37,063	28,376	76.6
30年3月期	38,442	28,925	75.2

(参考)自己資本 31年3月期第2四半期 28,376百万円 30年3月期 28,925百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		9.00		12.00	21.00
31年3月期		11.00			
31年3月期(予想)				12.00	23.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成31年 3月期の業績予想(平成30年 4月 1日～平成31年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,500	2.4	2,460	10.4	2,520	10.6	1,420	6.7	55.61

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 以外の会計方針の変更 : 無  
 会計上の見積りの変更 : 無  
 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期2Q	25,913,889 株	30年3月期	25,913,889 株
期末自己株式数	31年3月期2Q	379,756 株	30年3月期	379,434 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期2Q	25,534,339 株	30年3月期2Q	25,835,057 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、[添付資料]4ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

また、当社は、以下のとおり投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

開催日:平成30年11月28日(水)……機関投資家、アナリスト向け決算説明会

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(第2四半期累計期間)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
平成31年3月期	19,873	△152	△191	△132	△5.20
平成30年3月期	19,726	△307	△273	△256	△9.93
増減率(%)	0.7	-	-	-	-

大阪府北部地震、北海道胆振東部地震、西日本豪雨、ならびに度重なる台風などの天災により、被災されました皆様にご心配をお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧、復興を心からお祈り申し上げます。

当第2四半期累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)におけるわが国経済は好調な世界経済を受け企業収益が伸び、緩やかな景気回復基調となりました。その一方で当外食業界におきましては、労働力不足による人件費の増加や東京オリンピック開催準備に伴う建設費の高騰、店舗間・企業間競争激化など依然厳しい経営環境が続いております。

このような経営環境の中で当社は、市場調査により顧客ニーズを把握し、コア商品のブラッシュアップとメニューの拡充を行うとともに定期的なTVCMを実施することで、顧客の創造に取り組みました。更に、店内教育を見直すことで既存店の営業力を強化してまいりました。また、7月には新業態のからあげ専門店「からしげ」1号店を名古屋市緑区に出店し、今後の収益拡大のために多店舗化を推進してまいります。費用面においては、機械化と情報システムの活用、継続的なワークスケジュールの確認などにより生産性が向上し、販管費率が低下しました。

店舗展開、改築・改装につきましては、4店舗の新規出店、1店舗の退店を実施し、その結果、当第2四半期会計期間末の店舗数は165店舗(前年同期比2店舗増加)となりました。

当事業年度は既存業態と新業態の積極的な新規出店を行い、収益拡大を図ってまいります。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は198億73百万円(前年同期比0.7%増加)、営業損益は1億52百万円の損失(前年同期実績3億7百万円の損失)、経常損益は1億91百万円の損失(同2億73百万円の損失)、四半期純損益は1億32百万円の損失(同2億56百万円の損失)を計上しました。

(部門別の概況)

部門別売上高

	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)	前年同期比 増減率
	百万円	百万円	%
木曽路	16,381	16,513	0.8
素材屋	1,061	1,066	0.5
じゃんじゃん亭	1,166	1,122	△3.7
とりかく	502	512	1.9
鈴のれん	441	429	△2.8
その他	173	228	32.2
計	19,726	19,873	0.7

### 木曾路部門

しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曾路」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は117店舗(前年同期末比1店舗減少)であります。

営業面では好評を得ているイベント「北の幸まつり」やTVCMを引き続き実施しました。更に木曾路の新定番「鰻ひつまぶし」や「和牛ひつまぶし」を販売し、顧客満足と客数増加に努めました。また、お誕生日やお祝い初めなどのお子様のお祝い、新入学・就職、結婚や長寿といった慶事・祝事へのアプローチとともに最適のおもてなしを提供してまいりました。その結果、売上高は165億13百万円(前年同期比0.8%増加)となりました。

### 素材屋部門

居酒屋の「素材屋」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は14店舗であります。

営業面では、味噌串かつ・手羽先のから揚げなどの名古屋めしやこだわりの串焼き、また自家製の惣菜料理や旬の食材を活かした季節メニューの販売、焼酎一升瓶のお値打ち販売を実施するとともに、少人数から大人数の様々な宴会利用できる店舗として営業活動を行いました。その結果、売上高は10億66百万円(同0.5%増加)となりました。

### じゃんじゃん亭部門

焼肉の「じゃんじゃん亭」部門は、1店舗の新規出店と1店舗の退店により、当第2四半期会計期間末店舗数は14店舗となりました。

営業面では、食べ放題メニューの拡販とスピード提供、先手のサービスに取り組みました。また、引き続き法人や学生のイベントなどに合わせたメルマガの配信や学生限定企画など予約獲得活動に努めましたが、売上高は11億22百万円(同3.7%減少)となりました。

### とりかく部門

鶏料理の「とりかく」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は9店舗であります。

営業面では、「手作り」、「鶏」にこだわった料理と旬の逸品料理の販売を行い、また鶏料理の醍醐味と季節に合わせた食材の宴会コース、お客様ニーズの高い飲み放題プランを複数用意し来店客数の増加に努めました。その結果、売上高は5億12百万円(同1.9%増加)となりました。

### 鈴のれん部門

和食レストランの「鈴のれん」部門は、1店舗の新規出店により、当第2四半期会計期間末店舗数は7店舗(前年同期末比1店舗増加)になりました。

営業面では、御膳や季節毎のメニューを刷新し、各種宴会コースやしゃぶしゃぶまたはすきやきの食べ放題メニューに「お肉を選べるコース」をご用意しました。また、慶弔などの行事に対応したメニューと人数に合わせた多様なお席を準備し、来店客数の増加に努めましたが、売上高は4億29百万円(同2.8%減少)となりました。

### その他部門

その他部門は、ワイン食堂の「ウノ」、九州味巡りの「ここの」、からあげ専門店の「からしげ」、外販(しぐれ煮、胡麻だれ類)、不動産賃貸等であります。

新業態の「からしげ」が1店舗、「ここの」が1店舗の新規出店をしたことにより、売上高は2億28百万円(同32.2%増加)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

	前事業年度末 (平成30年3月31日現在)	当第2四半期 (平成30年9月30日現在)	増 減
総資産(百万円)	38,442	37,063	△1,379
純資産(百万円)	28,925	28,376	△549
自己資本比率(%)	75.2	76.6	-
1株当たり純資産(円)	1,132.80	1,111.32	△21.5

当第2四半期会計期間末の総資産は370億63百万円で前事業年度末比13億79百万円の減少となりました。主な要因は、設備投資、賞与、配当金、法人税等の支払による預金の取り崩しによる減少と棚卸資産及び有形固定資産の増加によるものであります。一方、負債は、86億86百万円で前事業年度末比8億30百万円の減少となりました。これは主に季節的要因により買掛金と未払法人税等が減少したことによるものであります。また、当第2四半期会計期間末の純資産は283億76百万円で前事業年度末比5億49百万円の減少となりました。主な要因は、四半期純損失1億32百万円、剰余金の配当3億6百万円であります。

以上の結果、当第2四半期会計期間末の自己資本比率は76.6%（前事業年度末は75.2%）、1株当たり純資産は1,111.32円（同1,132.80円）となりました。

### ②キャッシュ・フローの状況

	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)	増 減
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	347	△1,069	△1,416
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	△377	△576	△199
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	△287	△385	△98
現金及び現金同等物の 四半期末残高(百万円)	13,410	13,392	△17

当第2四半期累計期間のキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが10億69百万円の流出超過（前年同期は3億47百万円の流入超過）となりました。主な要因は、減価償却費の計上に対して、棚卸資産の増加、未払消費税等の減少及び法人税等の支出によるものであります。投資活動によるキャッシュ・フローは、主な要因として新規出店等に伴う有形固定資産の取得により5億76百万円の流出超過（前年同期は3億77百万円の流出超過）、財務活動によるキャッシュ・フローは、リース債務の返済、配当金の支払等で3億85百万円の流出超過（前年同期は2億87百万円の流出超過）となりました。

以上の結果、当第2四半期会計期間末の現金及び現金同等物の残高は前事業年度末比20億31百万円減少し、133億92百万円となりました。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成30年10月18日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	15,424	13,392
売掛金	1,180	998
商品及び製品	46	37
原材料及び貯蔵品	502	858
その他	463	491
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	17,616	15,779
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	5,336	5,347
土地	5,723	5,723
その他(純額)	1,288	1,774
有形固定資産合計	12,348	12,846
無形固定資産	199	211
投資その他の資産		
差入保証金	4,429	4,436
その他	3,878	3,820
貸倒引当金	△30	△30
投資その他の資産合計	8,278	8,226
固定資産合計	20,826	21,283
資産合計	38,442	37,063
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,316	1,110
短期借入金	920	920
未払法人税等	793	212
賞与引当金	534	661
その他の引当金	339	346
その他	2,713	2,315
流動負債合計	6,617	5,567
固定負債		
退職給付引当金	974	976
資産除去債務	1,312	1,333
その他	612	808
固定負債合計	2,899	3,118
負債合計	9,517	8,686
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,056	10,056
資本剰余金	9,875	9,875
利益剰余金	9,642	9,202
自己株式	△925	△926
株主資本合計	28,648	28,208
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	276	167
評価・換算差額等合計	276	167
純資産合計	28,925	28,376
負債純資産合計	38,442	37,063

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	19,726	19,873
売上原価	6,322	6,305
売上総利益	13,404	13,567
販売費及び一般管理費	13,711	13,719
営業損失(△)	△307	△152
営業外収益		
受取利息	9	10
受取配当金	10	10
協賛金収入	2	4
固定資産受贈益	12	—
その他	7	3
営業外収益合計	42	28
営業外費用		
支払利息	3	3
賃貸借契約解約損	3	61
その他	2	2
営業外費用合計	9	67
経常損失(△)	△273	△191
特別利益		
固定資産売却益	—	2
投資有価証券売却益	—	63
特別利益合計	—	65
特別損失		
固定資産除却損	4	1
減損損失	5	30
特別損失合計	9	32
税引前四半期純損失(△)	△283	△157
法人税、住民税及び事業税	60	54
法人税等調整額	△87	△80
法人税等合計	△27	△25
四半期純損失(△)	△256	△132

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失(△)	△283	△157
減価償却費	526	525
減損損失	5	30
売上債権の増減額(△は増加)	118	181
たな卸資産の増減額(△は増加)	411	△347
仕入債務の増減額(△は減少)	△154	△205
未払消費税等の増減額(△は減少)	△59	△326
その他	90	△111
小計	654	△411
利息及び配当金の受取額	19	20
利息の支払額	△3	△3
法人税等の支払額	△314	△614
法人税等の還付額	0	1
その他	△8	△62
営業活動によるキャッシュ・フロー	347	△1,069
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△247	△607
投資有価証券の売却及び償還による収入	100	88
差入保証金の差入による支出	△0	△68
差入保証金の回収による収入	89	71
その他	△319	△60
投資活動によるキャッシュ・フロー	△377	△576
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△232	△306
その他	△54	△78
財務活動によるキャッシュ・フロー	△287	△385
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△317	△2,031
現金及び現金同等物の期首残高	13,727	15,424
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,410	13,392

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。